

# チャンス・チャレンジ・チェンジ



秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝

## 男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会



・「地域の子どもは地域で育てる！」をキーワードに、地域の支援体制の構築について情報交換を行った。

### 1 連携協議会事務局（天王みどり学園）6つの提案

- (1) 既存の組織を利用した「市町村単位の連携協議会（ネットワーク）」の設置
- (2) 「就学支援シート」「個別の支援計画」の作成と活用
- (3) 「5歳児健診・相談会」の実施
- (4) 市町村教育委員会主催の相談会の開催
- (5) 通級指導教室、特別支援学級が地域の特別支援教育推進役
- (6) 発達障害を理解する研修会の開催

### 2 参加者の声（福祉 労働 教育 一般・福祉事業所 幼稚園・保育所 小・中学校 高等学校 保護者等）

- ・気になる子ども見付けるにも、生活を支援するにも、家庭、関係機関の連携や信頼関係が必要になる。早期発見を心がけていきたい。
- ・手帳やサービスの事務を行っているが、受給者本人がそれを受けてどのように生活をしているかというところまで意識がいつまでたってもなかった。
- ・6つの提案は具体的であり、実行に向けて連携をさらに進めていくことを望む。
- ・他市町村の例を参考にして、今年度中に「就学支援シート」を作成したい。
- ・小学校からの支援計画等が引継ぎされているので、中学校での指導に役立っている。
- ・体制づくりは教育委員会や各校との連携が必要である。自校の教育力の向上が課題だと感じた。自校の状況を振り返る機会になった。
- ・卒業するとどこに相談してよいか分からない意見を聞くので、今後、地域に総合的に相談できる窓口を設置して、そこから関係機関に案内できるようにしてほしい。
- ・就学時健診では遅いので、乳幼児健診を実施している課に、5歳児健診を働きかけていきたい。市町村ごとの協議会については、今後検討していきたい。
- ・教育と行政（労働）の連携は、まだまだ不足している。学校卒業後も5～10年は、支援員を付けるような援助システム等の施策はできないものか。
- ・地域の自立支援協議会が活性化することを望みたい。
- ・「個別の指導計画」を作成しているが、校内で共有する場がないので改善したい。
- ・「個別の指導計画」の作成に保護者を参画させてほしい。
- ・特別支援教育コーディネーターの存在を保護者だけでなく、現場の先生も知らない。
- ・「高等学校特別支援隊」の情報を得られたので活用したい。

不透明であるが、特別支援教育体制整備に関する事業（研修会や相談会等）が、平成26年度で終了・縮小する。今後、各市町村や学校（園）の自己解決力アップが求められる。地域の子どもに「一貫した支援」と「連携した支援」を実現するために、各地区ごとに福祉・労働・教育等の関係者が集まり、ネットワークをどう作り、どう連携していくか、具体的な話し合いを進めてほしい。「おらほの子どもはおらほで育てる！」体制づくりのために、事務局として各市町村を訪問して進捗状況を聞いたり、協議会通信を発行して情報提供をしたりしてつなぎ役を果たしていく。男鹿潟上南秋地区にみどりの風が吹く！